

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873600468
法人名	医療法人 大志会
事業所名	グループホームうちこ園
所在地	愛媛県喜多郡内子町内子3683番地
自己評価作成日	平成26年9月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日勤帯の職員は4～5人で対応しており、一人ひとりの利用者の方の個別介護が行き届くような体制を取っている。主治医をはじめ医療機関との緊密な医療連携の下に日常生活の安定と改善を図れるように努力している。地域に開かれたグループホームにするため、地域支援センターや他の関係機関とも連携して地域との交流や地域貢献に努めている。閑静で自然豊かな環境や無農薬野菜の栽培などを通して、日本の豊かな四季を体感できるように勤めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者は「地域との交流を大切にしたい」と地域交流に積極的に取り組んでおられ、うちこ園まつりや芝生の上でお弁当を拡げる会等の行事ごとには、毎回地域の方にも案内されている。又、日々の中での道の駅や図書館、公園への外出や、地区内のお寺や神社へお参り等も、地域の方と交流する機会になっている。地区のお祭り見物に出かけた際には、地域の方が庭先を貸してくださり、一緒にお祭りを楽しまれた。散歩したり農作業に来る地域の方は、時には事業所の敷地内に建つ東屋に立ち寄って一緒におしゃべりしたり、野菜や果物等のおすそ分け等もある。クリスマス会には、近所の子も達が増えてきて、歌を歌ってくれたり、一緒にケーキを食べながら楽しまれており、利用者は子ども達のかわいいしぐさにとっても喜ばれるようだ。読み聞かせや音楽療法のボランティアの訪問も、利用者の楽しみとなっている。

利用者の誕生日を一人ひとりをお祝いできるように支援しており、ご友人にも案内等されている。利用者に会いに来られる方には、笑顔であいさつして、ゆっくり過ごしてもらえようお茶やお菓子でもてなしておられる。退居した利用者のご家族が、利用者のお話し相手に来てくれており、又、元職員は外出や行事時に手伝ってくれている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム うちこ園

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

片岡 知恵美

評価完了日

平成26年 9月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「まごころ」と「思いやり」の事業所全体の理念と理念に対する目標を玄関ホール、詰所などのよく見える場所に掲示して職員全員が日常的に認識できるようにしている。また全体の理念を基にして、「職場におけるミッションステートメント」と題して、職員一人一人がそれぞれに個人理念を作り、より良い介護にするために役立てている。	
			(外部評価) 理念をもとに、今年度の事業所目標を「笑顔で」と作っておられる。事業所は開設10年を迎えており、これを機に、「原点に立ち返る」という意味も込めて職員個々に個人理念を作った取り組みをすすめておられる。個人理念には、すべての職員が「笑顔」という言葉を採り入れておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 同じ地区にある近くの神社に初詣して地域の人と触れ合ったり、ねはん像のあるお寺に参拝し、お茶などのお接待を受けたり、道の駅の特産品売り場を活用して地域と交流したり、図書館や図書館近くの公園を利用している。また地域の読み聞かせボランティアや子供たちの訪問もあり自然な交流を図っている。	
			(外部評価) 管理者は「地域との交流を大切にしたい」と地域交流に積極的に取り組んでおられ、うちこ園まつりや芝生の上でお弁当を拵げる会等の行事ごとには、毎回地域の方にも案内されている。又、日々の中での道の駅や図書館、公園への外出や、地区内のお寺や神社へお参り等も、地域の方と交流する機会になっている。地区のお祭り見物に出かけた際には、地域の方が庭先を貸して下さり、一緒にお祭りを楽しまれた。散歩したり農作業に来る地域の方は、時には事業所の敷地内に建つ東屋に立ち寄って一緒におしゃべりしたり、野菜や果物等のおすそ分け等もある。クリスマス会には、近所の子ども達が来てくれて、歌を歌ってくれたり、一緒にケーキを食べながら楽しまれており、利用者は子ども達のかわいいしぐさにととても喜ばれるようだ。読み聞かせや音楽療法のボランティアの訪問も、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 労働安定センターからの依頼で地域の実習生の受け入れ、及び内子町の介護相談員の現場実習への協力の要請があり、お互いに意見交換や自施設のあり方や介護サービスの質向上などについて再確認する機会が持て、新鮮な情報を取り入れる事が出来ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議においてグループホームでの取り組みや入居状況や活動内容等について説明や報告をし、改善課題等についての理解を得られるように、会議型の運営推進会議と交流型の運営推進会議を実施して参加者の方への理解を深めるように努めている。感染症予防対策についての勉強会を開き好評をいただいた。</p> <p>(外部評価) 会議には、家族会の会長や自治会長、老人クラブ会長、民生委員や町福祉課、及び地域包括支援センターの方が参加されている。「会議型の運営推進会議」時には、事業所から利用者の状況や活動報告等がされている。又、地域包括支援センターの方の助言もあり、現在、うちこ園祭りや町内グループホーム合同行事等と合わせた「交流型の運営推進会議」を複数回行っており、会議を地域との交流の機会とされている。</p>	<p>民生委員の方からの提案で、12月のクリスマス会を運営推進会議に合わせることを検討されていた。会議の機会を活かして、利用者の日常生活の様子や事業所のケアの取り組みを具体的に知ってもらえるよう取り組み、事業所ケアサービスのさらなる向上に向けて、意見や要望を聞く機会を増やしてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 認知症研修会では地域包括支援センター及び運営推進会議としての開催となった。必要時は地域のグループホームの定期的な連絡会に集団指導として参加していただき情報提供をしながら協力関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 町内のグループホームが主催する連絡会には、町の担当者も参加しており、感染症の注意喚起や情報提供がある。連絡会では今後、備蓄、防災についての勉強会を行なうことを計画しており、町の担当者の方等に情報や指導してもらいたいと考えておられた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 機会あるごとに身体拘束についての勉強会を開き、職員間での認識を深めている。また地域の事業所の機関や協議会などでの勉強会にも参加して研修をし、「禁止の対象となる具体的な行為」について各職員が認識できるように努め、常に身近なところに掲示して日常的に意識できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 利用者が自由に過ごせるよう日中は職員の人員を手厚くして見守っている。又、居室のドアに鈴を付けて、音でも利用者の動きがわかるよう工夫されている。又、利用者が座りっぱなしにならないように、様子を見てソファーに移って過ごせるよう支援したり、ベッドに横になる時間等も設けておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止関連法について内外での勉強会や研修会に参加して見識を深め、知らずして虐待につながらないように注意している。入居者の尊厳と基本的人権を保持しながら、楽しく生活が送れるように邁進していく意向を常に持ちながらサービス提供ができるように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護制度利用の該当者は現在はいないが、今後必要性が生じた場合は各関係機関と連携しサービス利用を推進する。成年後見制度及び生活自立支援事業についての研修会に積極的に参加して職場内でも更に勉強会を開催し全職員で共有しあっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は契約書や重要事項説明書、医療連携体制及び見取りの体制について十分説明し納得を得るようにしている。契約の改訂では改訂資料を提示して詳しく説明し同意を得るようにしている。契約解除においては本人や家族の意向を考慮し今後の対応の相談をする体制になっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の意向や思いを表しやすいように選ぶ機会や、決定場面の働きかけに努めている。また日常の生活場面で本人の言動や会話により、要望を見出し職員間で共有して満足してもらえるように工夫している。また家族等の面会時に必ず、意見要望を伺う事や介護相談員の相談制度を活用し、要望等を吸い上げるように努めている。	
			(外部評価) ご家族の来訪時には笑顔で迎え、ご家族のお好きな飲み物等を用意してゆっくり過ごせるよう気配りしたり、「何か気になることはないですか」と伺っておられる。遠くに住むご家族には、電話、手紙、メールでやり取りしており、利用者が喜んだことや楽しまれたこと等を知らせるように心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>毎日のミーティング、勉強会、職員会、個別面談など様々な機会を捉えて意見や考えを一人ひとり聞きだすように工夫している。検討の内容においては良い考えを取り入れやすいように雰囲気作りにも心がけ、柔軟な意見や発想が展開しやすいように問いかけたり、働きかけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員同士が話し合うような機会が多く、又、職員の気付き等も管理者に伝え、相談等しながら取り組みをすすめておられる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>年2回の人事考課を機会とし個人面接を実施すると同時に法人内の親睦会、全体会、勉強会などを通して理事者や代表者との交流が図れ、自由に意見が述べられる機会がある。また就業規則により職務や給与体制や条件は定められており納得できる体制になっている。スキルアップの段階に応じて昇給の体制も整っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>職場内研修計画と各職員ごとの個別研修計画及び就業時の新人研修計画及びOJT計画などの作成と実施により徹底した研修によるスキルアップ体制を整えている。愛媛県及び内子町内におけるグループホーム合同研修会や法人内の研修会にも積極的に参加して、職場内での勉強会に反映できる体制にしている。また、職場におけるミッションステートメント(個人理念)を各職員で作成した。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>愛媛県グループホーム協議会に入会して交流を図っている。また町内でグループホーム連絡会を自主的に作り毎月情報交換をしたり、研修会や勉強会を開催したり、合同運動会、合同研修会を開催して地域住民の協力を得るなど地域密着型としての役割を図っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>事前調査で自宅を訪問し、ご本人の生活状況や生活習慣、馴染みのものについてなどの把握をしている。その後施設見学をして頂き、施設の概要や理念などについて理解と納得をして頂き、入居の段階では慣れた場所として認識していただき、困っていることや要望などの現状を把握し関係づくりに努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の状況を把握し共有すると共に本人を取り巻く家族の状況や、家族間での思いや考え方の違いなども把握して、家族と一緒にご本人を支えていく姿勢を持ち、徐々に本人への思いが重なり合い励まし合える関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の要望や現在の状態について、必要なサービスと今後更に必要であろうサービス等について説明相談し、サービス内容を自由に選択できるように促し、必要時は担当ケアマネや支援センター及び介護保険課等の協力を得て解決できるように連携を図っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとりのできる事を引き出す介護を続けるなかで、ご本人の得意なことを工夫して生活行為への参加を促しセッティングして、実施する事で、介護者側が入居者に感謝する場面を沢山作り、介護されていることの意識を持たないような方法に努め一部分でも参加してもらうように工夫している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会の交流会や日々の面会の機会を通してお互いの信頼関係を深めながら、日常的なご本人の現状について共有しあい共感し合い一緒に喜び合えるよう、共にご本人を支える支援者同士として連携できるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 町内の商店街や道の駅「からり」に買物に行き馴染みの人たちと顔を合わせて話したり、馴染みのお寺にお参りしたり、行事に参加したりして昔を懐かしみ、地域社会との関係を継続している。また親しい地域の人達を招待して一緒に交流を図ったり、地域の人たちが尋ねてきてもらい懐かしんで交流を図っている。 (外部評価) 利用者の誕生日を一人ひとりをお祝いできるように支援しており、ご友人にも案内等されている。利用者には会いに来られる方には、笑顔であいさつして、ゆっくり過ごしてもらえようお茶やお菓子でもてなしておられる。退居した利用者のご家族が、利用者のお話し相手に来てくれており、又、元職員は外出や行事時に手伝ってくれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合うもの同士での交流が自然に持てるような働きかけのなかで、更に注意して見守りながらふとしたきっかけにより新たな関係性が見出せるように散歩や野菜作りの協働を勧めたり、また少人数での外出を実施したりして関係を深める支援をし、孤立する事がないように心がけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退職した職員や元入居者のご家族等がずっと継続して遊びに来ていただき、ボランティアとして、入居者との話し相手になったり、運動会やお弁当を拡げる会、誕生会、クリスマス会などの行事に協力していただき交流を図っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を使用して一人ひとりの希望や意向等の情報を職員間で共有し日々の介護に活かしている。意向や希望は固定化せず成り行きや場面、介護の状況等によって変化していくことも考慮しながら、その時々での意向も確認するようにしている。またセンター方式の記入にあたっては家族にも記入していただきより真意の把握に努めている。 (外部評価) 入居時には、センター方式のアセスメント様式を用いて、ご家族に心身の情報、長年なじんだ習慣、好みや暮らしの様子等、項目ごとに記入していただきながら利用者の情報を集めておられ、年1回、担当が見直しをされている。怒りっぽいような方も、ゲーム時には笑顔になることを職員は知っており、様子を見ながら参加できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 自宅での生活の習慣やご本人の生活の歴史、また自宅周辺の環境及び家族関係についてなど、入居に至る経過を把握し、入居後も引き続きセンター方式シートを活用して、総合的な理解把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者の個別の生活スタイル、リズムに添って出来ること、できないことの日差変動及び日内変動の状況を細かく観察し、その時々に応じた対応を心がけ、職員全員で共有し把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎日の生活から介護の組み立てにより客観的な視点での介護内容を家族や職員が共有し、よりよく生活するための支援を盛り込むようにしている。個性や意向を大切に本人や家族、職員や主治医、関係者等の気づきや意見を検討して総合的な介護計画を目指している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、入居時は2～3ヶ月毎、変化時は随時、それ以外は6ヶ月ごとに見直しを行っており、変更時にはご家族へアンケートを取るようになっている。事業所は、「楽しく笑顔になるような計画」作りに努めており、毎月、担当職員が評価して、職員全員で話し合う場を持っている。ご家族には来訪時を捉えて、計画の説明をされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>SAOP式の介護記録形式にて出来ること出来ない事、介護状況についてや身体状況の変化による日内変動、日差変動及び食事や水分摂取状況等を日々記録することで情報を共有しセンター方式を含めて個別記録と介護計画が総合的に連動できる体制にしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>通院や送迎等の柔軟な対応にて重度化及び高齢化に伴う家族状況や要望に応じていくように支援している。法人内の施設や機能を活用して生活リハビリを充実させ自立支援が図れるように努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域の図書館を利用したり、公民館での催し物を見学に行くなど、文化的でより豊かな暮らしを楽しめるよう地域資源を活用している。少しでも生き生きとした暮らし方ができるように地域の力を借りて努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入居者一人ひとりの主治医の継続的な医療が受けられるように、また受診時の送迎をしたり、生活状況及び身体的一般状態を細かく報告し医療連携を図りながら、異常の早期発見に努めている。また家族への連絡も詳細にしてご本人の情報を共有している。</p> <p>(外部評価) 以前からのかかりつけ医を受診している方がほとんどであり、ご家族と協力しながら付き添われている。必要時には、ご家族が医師と直接話し合えるよう支援している。急変時には、近所の個人医院から夜中でも往診に来てもらえる体制となっている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 管理者は看護師でもあるため入居者の日常的な一般状態を注意深く観察し健康管理を行っている。また主治医との連携を密に図り医療面や栄養面での助言が日常的に気軽に受けられる体制が整っている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 病状や入院治療方針、今後の注意事項について等家族と共に説明を受けたり、病院の看護師や本人及び家族と情報交換を図るなどして退院後の過ごし方などについても把握できるように積極的に働きかけている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 医療連携体制及び看取り介護に関する指針について説明したり文書にて共有し、重度化や終末期の対応について本人や家族及び主治医を交えて一緒に検討したり、同意書を作成して方針を統一している。ご本人の病状の悪化時は主治医の意見を踏まえて、家族と検討を重ね合い、その時々の方針の変化にも柔軟に対応するように努めている。</p> <p>(外部評価) 町内グループホーム連絡会主催の、「住み慣れた場所での看取りのあり方」についての講演会にご家族も参加されて、一緒に看取り支援について学ばれた。ご家族の中には、「家族の考えをしっかりと意思表示することも大切」と感想を話す方もあったようだ。事業所では、これまでに2名の利用者の看取りを支援されている。医師から終末期と言われてから5年間事業所で過ごされ亡くなった方は、前日までお風呂に入り、「ありがとう」と告げて静かに逝かれたようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の救命講習会に参加して救命技能を経験できるようにしている。また緊急時の対応マニュアルや母体である老人保健施設との協力体制にて応急手当や連絡方法等の留意事項を周知して職員会議でも話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力によりグループホームを主体にしたり、夜間想定による訓練をして、避難誘導や避難経路の確認、消火器の使用方の訓練をおこなっている。法人内には災害時に備えた日用品や食料品、飲料水を備蓄しており万が一の場合に備えている。町内での一斉避難訓練が実施され当園に於いて地域の多数の住民と協同で避難訓練や消化訓練を実施した。 (外部評価) 夜間、昼間を想定した避難訓練を行っており、職員は、消防署への通報や消火器の使い方等を実際に体験している。又、町内の一斉訓練時には、運営推進会議メンバーや地域の方が事業所に来られて、一緒に担架を使って搬送するような訓練が行われた。事業所は耐震構造で、同一敷地内にある法人介護施設には、食料等の備蓄がある。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 基本的人権を尊重するという理念に基づき、入居者の意向や気持ちを尊重して確認しながら介助を勧める事、入居者は目上の方で人生の先輩である事から敬語で接する事、十分プライバシーに考慮した声かけや誘導をする事などについて、採用時や職員会議、毎日のミーティングで話し合い認識、合意している。 (外部評価) 管理者は、「プライバシーとは何か」職員に理解してもらえるよう、「自分がされて嫌なことをしない」ように指導している。職員は、利用者を～さんと名字で呼ぶようにしており、職員同士も慣れ合いにならないように、～さんと呼び合うようにしている。事業所便り等には、個人名を出さないよう配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者個人の嗜好や関心、好みを日頃の関わりの中から見極め、自ら選択できる場面作りに心がけている。また各個人の好みや嗜好をパターンの決め付けず、気持ちや好みの変化についても敏感に捉えられる介護に努め、些細な表情や言動から読み取り共有し、共感できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	その人の体調や天候等に合わせて、買物や外出散歩や受診と一人ひとりの意向を確認しながら生活リズムを整えたり、その日の望みを推し量り自発性を刺激して、柔軟に対応できるように職員側の余裕も持ちながら支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	訪問美容でパーマや毛染めなどのおしゃれができるように取り組んでいる。また日々の衣類の組み合わせや、衣類のズレ直しなどを工夫して整容を細かく注意して身だしなみを整え個人の尊厳につながるように支援している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	毎日の食材等の買物や、畑からの旬の野菜の収穫により食材を調達し、下ごしらえや調理、盛り付けや配膳、後片付けなどの作業に一人ひとりの力量に応じた参加ができるように働きかけ、一緒に出来上がる過程や料理の味を喜び合うようにしている。
			(外部評価)	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	食事、水分摂取量は詳細に記録し継続的な観察において、一人ひとりの状況が把握できるとともに、摂取量や栄養のバランスを保持できるように支援している。また職員及び家族や主治医が共有する情報としても役立てている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	口腔内に残渣物が残っていないか、うがいや歯みがき時に注意して観察し口腔ケアを実施しながら誤嚥予防にも心がけている。義肢は就寝前に消毒し、歯茎のマッサージをスポンジやブラシを利用して口臭が発生しないように努めている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) センター方式のシートを活用して、一人ひとりの排泄パターンや生活リズムを把握しトイレにタイミングよく行けるようにサインや意思表示を察知して、さりげなく誘導してトイレで気持ちよく排泄ができるように支援している。夜間はオムツ対応の人でも昼間は尿パットを上手に活用してトイレで自然に排泄できるように工夫して誘導している。</p> <p>(外部評価) 2居室に1つトイレが設置されており、利用者はそれぞれにご自分のトイレを使用されている。「24時間シート」を用いて排泄パターンを把握して、時間をみて声かけしたりトイレ誘導して支援されている。背もたれや可動式の手すり等を取り付け、利用者の負担軽減やご自分の力を使って利用できるように整備されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 毎日の生活活動の中で適度の運動を取り入れ、繊維の多い野菜やイモ類、海藻類、きのこ類を毎日の調理に使用して腸内環境を整え、自然な排泄が出来るように努めるとともに、便秘気味の方にはオリーブ油センナ茶やゴマを利用して排便の管理にも努めている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 入居者の希望にあわせていつでも入浴が可能なように浴室環境を整えている。重度化して浴槽に入ることが困難な場合でも座シャワーを使用したり、2人体制での重点的な介助にてなるべく一般浴で気持ちよく入浴できるように支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者個々に、週3回程度入浴できるよう支援されている。入浴の誘いを断る利用者には、無理強いせず日を替える等して対応されている。寝たきりの方の入浴には、布を使って湯船で温まれるよう支援したり、洗い場にスポンジマットを敷いてシャンプー等ができるよう工夫されている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 入居者個人の表情や身体状況により食後は自室でゆっくり休憩できるように誘導したり、また自室で閉じこもりがち場合は適度な生活行為や散歩外出を働きかけて気分転換を図り夜の安眠に繋げるなどの工夫をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬局から配布される薬説明書を各個人記録と共に綴り内容を認識し共有している。1回分ずつ手渡して服薬の確認をし、誤薬のないように注意している。また下剤などの利用者については日頃の排泄状況等の観察とあわせて必要時は主治医に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居者一人ひとりの残存能力を引き出し活用して、洗濯物を干したり、料理の下ごしらえ、野菜作り、花の植え替えなどの出番を作り活躍できるように支援している。時には喫茶店でコーヒーや紅茶などを楽しんだり、買物や外食で気分転換を図ったりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買物や地域の役場などへ一緒に出かけたり、少し遠くの集合店に足を延ばしたり、一人ひとりの移動能力や希望にあわせて気軽に出かけている。四季折々の花を探して見物したり、神社やお寺をめぐるたりして満足できるように支援している。また、お墓参りに出かけて親類の人との交流を図ることもある。	
			(外部評価) 職員は利用者とスーパーまで食材の買い出しに出かけたり、玄関先等に植えるお花の苗を買いに行ったりされている。月1回程度外食に出かけており、普段食べないようなメニューを注文して楽しまれている。入居時、「外出用の洋服を一着をお願いします。」と伝えており、利用者は「よそ行き」に着替え、スカーフ等しておしゃれを楽しみ、外出されている。図書館は、靴を脱いで利用するようになっているため、利用者によっては負担になる場合もあり、折を見て利用者の立場から意見等も出してみたいと考えておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 財布やバッグの中に少額のお金を自分で持って、時々残高を計算するなどされている。買物や外出時は一緒に金額を確認し「安い、高い」と勘定しながら相談して選んだりレジで実際に支払いをしてもらうこともある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話はコードレスの受話器にて適宜自室でゆっくり会話する事もできる。本人の要望にていつでも電話ができるように、職員からも声かけて通信体制を整えている。遠くの家族からの贈り物のお礼にはがきをしたためて送れるように支援している。一人ひとりの力量に応じて年賀状を作製してご家族や孫など親族に送り込んでもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室と廊下の空間に暖簾で仕切りちょっとひと休みできるように椅子を置き個室と共用間の堺にしている。居間や食堂台所は仕切りがないので気兼ねなく入り作業がし易いようになっている。畳の間はコタツや火鉢を置き冬場の暖がとれるようにしている。温度計湿度計にて気温を管理し排煙窓の開閉により冷暖房の空気の淀みを解消し環境整備に努めている</p> <p>(外部評価) 玄関先にはスロープやベンチが設置されており、プランターにお花を植えておられる。又、ボランティアの方が活けてくださったお花も飾られていた。廊下からテラスに出られるようになっており、ひなたぼっこしたり、洗濯物を干したり、又、畑の野菜の生育を楽しみに眺めている。芝生の庭には東屋があり、散歩中に休んだり、お茶を楽しむこともある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ベランダやテラスに椅子を置き畑の育ち具合や園庭を見つめたり、廊下や居間のあちこちにちょっと座って一呼吸置けるスペースを設けている。居室の入り口には椅子兼収納になったスペースがあり、居室と廊下のさりげない空間となり落ち着く場所となっている。玄関の外内の椅子は出入りの靴の履き替えや面会者のお見送りなどさまざまな用途にて重宝している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家族の協力により自宅で使い慣れた物や、自分が作成した作品などの馴染み深い品物を持ってきてもらい居室に置くことで、「ここは何処やろう」と急に不安になる人でも自室に入ると安心され納得される方もある。一人ひとりの安心の源を増やしていくように努めている。</p> <p>(外部評価) 個々にタンスや衣装ケース、テレビ等を持参されたり、観葉植物やご自身の作品、ご家族の写真を飾っている方もある。畳の部屋が2部屋あり、希望に沿って使用されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 居室の名札やトイレなどの表示は入居者一人ひとりの目線に合わせるようにしている。食堂のテーブルは季節の花や飾り物などを並べて、自然に季節が把握できるようにして、入居者の目線で環境を整えるように努めている。</p>	